

の整備、そして産業・福祉・教育等各方面にわたる事務事業の推進に努めて参る所存であります。

又、平成17年3月までには工事中の鉄道橋や国道126号にかかる新栗山橋、そして横芝堰が完成する予定でありますし、銚子連絡道路の整備や県道停車場白浜線にかかる栗山橋の架け替え等も進むものと思われ、横芝町も大きく様変わりするこれが考えられます。

ひいては住民福祉の増進のため行財政基盤の強化は是が非でも図つていかなければならぬものであり、引き続き議会とともに将来に禍根を残さない合併の実現に全力を傾注して参る所存でございますので、町民の皆様には尚一層のご支援・ご協力を賜りますようお願ひ申し上げます。

結びに、町民の皆様の益々のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして年頭のご挨拶といたします。

横芝町議会

新年明けましておめでとうございま
す。

慶び申し上げます。

本年も最重要課題であります市町村合併問題や中学校建設問題をはじめとして、町民の皆様の福祉向上のため、議会が一丸となつて努力して参りますので、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

お正月について

そもそも「お正月」とは、農耕民族だった日本人が、新しい年の豊作と繁栄を願い、五穀豊穣と子孫繁栄を司る歳神様を家に招いて祝う農耕儀礼でした。それが年を経て形を変え、受け継がれたものだそうです。

●門松（かどまつ）はなぜ立てるの？

新年を祝って、家の門口などに飾られる「門松」とは、その年の神さまをお招きするための目印であり、また、神さまが宿られる場所（依代（よりしろ））を表すものです。もともとは、松・杉・椎（しい）・榎（さかき）といった常緑樹を用いていたようですが、いつしか主として松を用いるようになり、そのことから「門松」と呼ばれるようになりました。

●注連縄（しめなわ）って何？

注連縄は「結界」と呼ばれる神聖なエリアの標識です。注連縄のある位置から向う側は、神様のいる場所である…ということを示しています。だから注連縄を家の玄関や大切な場所に飾るのは、災いを成す厄を遮断する機能をもっているわけです。私たちはこの結界のニュアンスを心の奥で感じながら、毎年のお正月に注連縄を飾り、新しい魂をもって1年の豊かな暮らしを願っています。

なお、門松や注連飾り（しめかざり）などの正月飾りを取り除く日については、1月7日に定めている地方が多く、正月をひと区切りする意味で、元日から7日までを「松の内（うち）」といいます。